

4月から新しく校友になられた皆さん、おめでとうございます。

人生は「出会い」から始まります。本学に入学してクラスメートとの「出会い」があり、卒業してからは「校友」や「校友会」との「出会い」が始まります。「出会い」で大切なのは「人」であり、「仕事」や「商品」、「技術」も同様に大切です。成功する人は良い「人」と「出会い」、磨かれ伸びていきます。「人」との「出会い」こそ、かけがえないものであり、「校友会」での「出会い」を、しっかり受け止めてほしいと思います。



「校友会」には約264,500人の校友がおり、また、日本全国には320の地域支部、職域支部などがあり※、皆さんとの「出会い」を待っています。今後は運動部や文化部、ゼミなども連携し、多くの新校友の皆さんに興味を持っていたできるようにしたいと考えています。

昨年の「東日本大震災」を機に「絆」が見直されていますが、専修大学の「絆」をいつまでも大切にするためにも、ぜひ「校友会」の活動に関心を持っていただきたいと思います。

「東日本大震災」では私自身、経営する会社や従業員も被災し、専修大学校友会誌『アドニス』はじめ新聞やテレビの取材を受けました。そうした記事や報道を見た全国各地の校友の方々

から物資、義援金などのご支援をいただき、いままで以上に「校友」との「絆」を強く感じました。

私についてお話ししますと、卓球部出身でもあり、専大スポーツには特に関心を持っています。

今年は新年早々から、サッカー部が素晴らしいスタートを切りました。インカレで決勝までいくのは、大変なことです。試合当日、私は所用があり、会社のある岩手県大船渡市にいました。国立競技場へ観戦に行った校友からは、電話やメールで次々に試合経過の連絡が入りました。「1対0で勝ってる!」「2対0で勝ってる!!……。残り時間15分、これは逃げ切れると思ったら、「逃げないで、攻めてる!」と、電話の相手は叫んでいます。結局、3対0で勝ちました。2部から昇格し、インカレ初出場で初優勝、これは本当に大変な快挙です。日高義博理事長・学長も試合当日、ご夫婦で応援に行かれたそうです。優勝が決まった瞬間、選手・監督はじめ観客席を埋めつくした校友・在校生が、一体となって歓喜の嵐だったと、後日、興奮した口ぶりで私に語ってくれました。オール専修は、この勝利で非常に勇気づけられたと思います。

卓球部のリーグ戦では、試合前に出場校の校歌が流れます。私は大学4年間、ずっと聞いてきましたから、他大学の校歌も歌うことができます。その中でも、専修大学の校歌が一番、素晴

らしい。ぜひ、新校友の皆さんも校歌を覚えて、いつでも、どこでも歌えるようになってほしいと思います。「絆」を結ぶのに、校歌に優るものはありません（P8に歌詞と誕生エピソードを紹介）。

私は在学中、感激して泣きながら校歌を歌ったこともありますし、うれしくて、うれしくて声を張り上げて歌っ

## 人生は「出会い」から 専修大学の「絆」 「提案型」ビジネスパーソン

たこともあります。試合に負けたときは、優勝校の校歌が流れるのを聞きながら会場の外に出て、悔し涙で静かに本学の校歌を歌ったこともあります。新校友の皆さんも、ぜひ競技場などに足を運び、校歌を歌う機会があったら、一緒に歌おうではありませんか。

最後に、社会へ旅立つ諸君へのアドバイスとして、「提案型」のビジネスパーソンになってほしい。いまの日本の企業や組織は、さまざまな問題を抱えています。言われたことだけをやるのではなく、自分から積極的に提案し、実現に向けて行動する。そんな人になってほしい。それこそ本学の4人の創立者たちのスピリッツを受け継ぐものであると、私は思います。（談）

※校友数、支部数ともに平成24年1月末現在

あまたけ ひでお●  
1958（昭和33）年、商経学部商業学科卒業。1935年生まれ。岩手県出身。現在、(株)アマタケ相談役、(学)専修大学理事・評議員。学生時代は卓球部所属。

# 「校友会」へ、ようこそ。